令和の挑戦 Vol.2

緑町の三角洲に人、物、情報、文化を集結させたい
マンハッタンのトライベッカみたいにね

糸井ホールディングス株式会社　代表取締役社長　糸井丈之さん

母体は総合リサイクル業だが、プロ野球チーム「群馬ダイヤモンドペガサス」の運営、外国人に日本語指導やマナー教育を行うNPO法人、県内最大規模のeスポーツ専用施設など、幅広い事業展開を行う糸井ホールディングス（以下、糸井HD）。すべての事業を結ぶものは糸井社長の地域への想いだという。

幅広い人々にeスポーツを！

オリンピック競技への採用が検討され、今、話題のeスポーツ。糸井HDは高崎に県内最大規模のeスポーツ専用施設をつくるそうですね。

糸井　緑町にある島忠高崎店跡のビルの1、2階を使い、年内にオープンさせる予定です。ゲームマニアのための施設ではなく、幅広い方々の来場を促したい。そこで、競技ブース、大型スクリーンのほか、体験ブースを設けます。

大会は週末を中心に開いていきます。初心者や高齢者、障がい者など、これまでeスポーツとは縁遠かった方の大会も行いたいと考えています。

また、eスポーツのスクールも開講する予定です。一般的なコースだけでなく、プロゲーマーを目指す本格的なコースも構想中。日本ではeスポーツの知名度は今ひとつですが、海外ではプロゲーマーは憧れの職業。大金も手にできる。この地からそんなプロゲーマーを輩出していければいいですね。

代表取締役社長　糸井丈之さん

2007年にはプロ野球チーム「群馬ダイヤモンドペガサス」を創立されました。エンターテインメント事業に興味をお持ちなのですか？

糸井　いえ、そういうわけではありません。私がこれらの事業を始めた本当の狙いは違うところにあるのです。

その狙いとは？

糸井　我が家は、多野郡吉井町（現・高崎市吉井町）で300年ほど続く農家でした。終戦後、親父が鉄スクラップの会社を興し、それが今日のような総合リサイクル会社になった。事業は順調に伸びてきましたが、20年ほど前から私は、自分が何のために生きているのか、自問自答していました。一つはっきり言えることは、先祖が住み続けた群馬に、孫やひ孫をはじめ、子孫に居続けてほしいということ。私が死んだあと、墓の前で、「こんなさびれた場所では商売はできないから、東京に移るよ」なんて言われたら成仏できません。

少子高齢化が進み、日本の人口は今の一億2000万から、一億、そして9000万と減少していくのは確実。そのしわ寄せを受けるのは地方です。子孫のために群馬に人を増やしたい、活性化させたい。その想いが、私のここ10数年の行動の基盤です。

受け皿を整えることの重要性

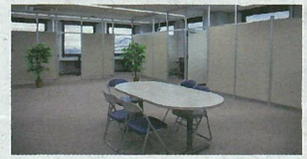
糸井HDではベンチャー企業の支援や大学生への奨学金制度も行っていますが、それも地域活性化のためなのですね。

糸井　そうです。ベンチャー企業への資金援助は、会社が大きくなった後も群馬に本社を置くことが条件。また、高崎経済大学の体育会系サークルに属する学生を対象にした「糸井商事スポーツ活動奨励奨学金」は卒業後も、群馬に住み続ければ返済額の半額を免除するというシステム。若者に都会ではなく群馬で経済活動を行ってほしいのです。

近年、外国人労働者も増えています。彼らにもぜひ群馬で働いてほしい。「そのためには何か行動を起こさないと」と昨年、弊社の緑町第一ビル内に「NPO法人群馬外国人支援センター」をつくりました。日本語教育を行い、マナーを教え、自動車免許を取得させ、群馬の企業とのマッチングまでワンストップで行っています。

コロナ禍で地方へ移住する人が増えそうですが。

糸井　ぜひ移住先に群馬を選んでほしい。そのためにはしっかり情報を発信し、受け皿を整えなければいけないと思っています。弊社は8月中旬、「群馬テレワークオフィス」を開設しました。ここには、一人ひとりがテレワークに専念できるゾーンと、週1回など利用日を決めてオフィス空間をレンタルする「1デイオフィス」というゾーンがあります。後者は今まで群馬県に営業所や支店があったけれど、在宅勤務が始まったことでオフィスが不要になった。でも、ゼロにしてしまうのは不便。そんな企業に使っていただきたい。



テレワークのためのゾーン

今後の展開は？

糸井　やりたいことはたくさんありますが、まずは国道17号と環状線と高崎渋川線に囲まれた緑町の三角洲に人、物、情報、文化を集結させたい。そのためのeスポーツ施設であり、テレワークオフィスです。様々な人々が集まってきて、新たな息吹をもたらしてほしい。大阪の中之島やマンハッタンのトライベッカのようにね。

糸井HD緑町第1ビル